



## 私のすすめるこの1冊

浅沼 徹 (体育学科 講師)

### 『「生き抜く力」の育て方——逆境を成長につなげるために』

蝦名 玲子 (著)

本書は、生き抜く力として「レジリエンス」「Sense of coherence: SOC」「心的外傷後成長」の3つの概念を取り上げ解説し、それらが高めるためにはどうすればよいのか、ということを書いたものである。とくに、思春期の子供のそれらが高めるための親や教員のアプローチ方法を、コミュニケーション方法や環境づくりの観点から詳細に、かつ一般の読者にもわかりやすく紹介されている。

著者の蝦名氏は、東京大学大学院在学中に、クロアチアにおける旧ユーゴ紛争を思春期に経験した方々を対象として SOC の形成要因を研究してきた。その後、国内においても小児がん患者等を対象に生き抜く力の形成に関する研究を展開している。

ここで、本書で取り上げられている SOC について、簡単に紹介させていただく。SOC は、イスラエルの健康社会学者であったアーロン・アントノフスキー博士が提唱した Salutogenesis (わが国では「健康生成論」と訳される) の中核概念として位置付けられ、心身の健康を保持増進する健康要因 (salutary factor) とされている。その定義は、「自分の生きている世界 (生活世界) は首尾一貫している、筋道が通っている、訳がわかる、腑に落ちるといった知覚・感覚」とされ、把握可能感 (自分の置かれている、あるいは置かれるであろう状況がある程度理解できる)・処理可能感 (問題に対してう

まく対処できる)・有意義感 (ストレッサーへの対処や日々の営みに意味を感じられる) の 3 つの下位感覚から構成される。

アントノフスキー博士は 1970 年代初頭に、第二次世界対戦下で強制収容所に収容された後に生き延びた女性を対象として健康状態を調査した際に、過去に大きなトラウマを抱えていながらも健康状態が良好であった人々に興味を持った。このような経緯から、健康を阻害する risk factor の低減や除去を目的としたこれまでの疾病生成論 (Pathogenesis) と対をなす健康生成論を提唱した。

筆者はこれまで、小学生～大学生を対象に、SOC の形成に関する研究を進めてきた。その中で、とくに家族や教員のかかわり方が高い SOC を育む上で大切であること、幼少期からスポーツを継続実践したりすることが SOC の向上に寄与することを報告してきた。これらの研究を通じて、自身を含めて人の健康状態が如何にダイナミックであり、過去の経験や周囲の人々とのかかわり方に基づいているのかを実感している。

前述のとおり、本書は思春期における生き抜く力を高めることに焦点を置いているが、大人においても自身の健康を高めるヒントが散りばめられていると思われる。

第36回  
「うたとおはなしの会」報告



令和5年12月16日(土)に、附属図書館2階「研修セミナー室」にて、第36回「うたとおはなしの会」が開催された。当日は前夜に降った雨もあがり、14組(大人21名、子ども17名)の親子が続々と訪れた。

最初に「うたとおはなしの会、はーじまーよー」の掛け声が続いて、幼児教育専攻学生4名が「ゆき」を歌いながら登場し、和やかな雰囲気で開催した。続いてパネルシアター「ふとんのなかで」では、布団の中で寝ている動物がだれか、学生の問いかけに対して「ねずみさん」「にわとり」などと、身をのりだして答える子どもやお母さんと顔を見合わせて相談する子どもなど、やりとりを楽しむ姿が見られた。

続いて、「どれみふぁそったくん」扮する「森の音楽隊」7名が「もろびとこぞりて」を奏でながら登場すると、会場からは大きな拍手がおこり、子どもたちも初めて見る本物の楽器に興味津々の様子だった。音楽隊のメンバーはまず、「クリスマスの歌がきこえてくるよ」(新沢としひこ/作詞・作曲)を歌いながら、チェロ、アルトサクソ、ホルン、カフオン、ピアノの楽器紹介をし、続いてクリスマスソング「赤鼻のトナカイ～サンタが町にやってくる」を演奏すると、お母さんやお父さんの膝の上で子どもたちも、リズムによって身体を揺らしながら楽しそうに聞き入る様子が見られた。そして最後は、子どもたちも一緒に「おもちゃのチャチャチャ」を演奏し、大満足な様子だった。

音楽隊が去った後は、「いとまき」の手遊びを親子で楽しみ、お待ちかねの人形劇が始まった。今回は、冬にちなんだお話としてウクライナ民話「てぶくろ」を上演した。まず最初は、図書館長の谷口匡先生扮するおじいさんが、雪が降り積もる森の中を子犬と散歩するシー

ンから始まった。物語では、おじいさんが雪の上に落とした手袋の中に、動物たちが次々に入り込み、身を寄せ合って暮らし始める。手袋に入る動物が増えるたびに繰り返される「あったかいね、気持ちいいね」の歌を聞いて、1歳男児と参加した母親は「歌が気に入ったようで、すぐに覚えて歌っていました」と嬉しそうに語っていた。劇の最後に、おじいさんが手袋を拾いに来て、動物が森に逃げていき、物語が終わった。

プログラムの最後には、人形劇に登場した動物たちの他に、出演者全員が登場して「ジングルベル」を合唱し、会場は一足早いクリスマスモードに包まれた。今回のお土産は、学生が芋の蔓で手作りしたクリスマスリースと手袋(中に折り紙の動物が入っている)である。お土産をもらった子どもたちは早速手袋の中から動物を取り出し、嬉しそうにお母さんやお父さんに見せていた。来場者の中には、かつて学生時代に「うたとおはなしの会」に出演経験のある卒業生もいて「親になって子どもと一緒にこの会に参加できて、すごくうれしい」と語っていた。また、3歳女兒と参加した母親は、「うたもおはなしも素敵で、あつという間の時間でした」「次回もぜひ参加したいです」と感想を述べていた。これからも1回1回の出会いを大切に、来場者の心に残る会になるよう努力を続けていきたい。

(幼児教育科 平井恭子)



児童書コーナー (南館1階)



今月の絵本カード(学生作)

『ねずみのすもう』

作:大川 悦生

絵:梅田 俊作

出版社:ポプラ社



※児童書コーナーに  
かわいいカードが  
飾られていますの  
で、ぜひ見に来て  
ください。

京都教育大学  
それはかなう夢講座

「先生になりたいーそれはかなう夢」は、京都教育大学のシンボルフレーズです。「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。

第39回の報告

YouTubeで公開されています。

【講師】亀田直樹(理学科 講師)

【テーマ】地学(地理)分野の指導はジオパークを使って

第40回のお知らせ

1月中旬YouTubeのみ公開予定

【講師】佐川早季子(幼児教育科 准教授)

【テーマ】「みて、みて」から広がる子どもの表現の世界  
～「まね」は「創造」のはじまり?～

主催:「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト委員会

後援:京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館



※今までの回も  
視聴できますので、ぜひご覧ください!



学修相談カウンター:ミニ講座を実施しました

11月28日と12月4日に、学修支援員(本学大学院生)が自ら考えたテーマで、ミニ講座を3回実施しました。各自の得意分野や研究紹介、教員採用試験対策の事例紹介など、参加者と交流しながら講座を実施してくれました。

おつかれさまでした!



図書館は、いつもみなさんの「まなび」を応援しています。



学修相談カウンターでは、京教の先輩が勉強や教育実習などいろいろな質問に対応してくれます。勉強や就職のこと、先輩に相談してみませんか?ぜひ気軽にお立ち寄りください。

【時間】授業期間の平日 2~4限のうち該当の時間

【場所】北館 2階 ラーニングcommons

時間が合わない、いきなり対面相談は緊張する、、、などの場合はフォームでの相談も受け付けています。

※詳しくは図書館ホームページにて

QRコードからも  
チェックしてみね。



冬季休業に伴う長期貸出について

【返却期限日】2024年1月15日(月)



春季休業に伴う長期貸出について

学部生:1月27日(土)~4月3日(水)

院生・教職員:1月15日(月)~3月19日(火)

【返却期限日】4月18日(木)



学生によるブックレポート展示コーナー

必修科目「教育の理念と歴史」(神代健彦准教授担当)との協働企画として、受講生が選んだ図書館の本と、内容やおすすめポイントをまとめたブックレポートをセットにして展示しています。

【期間】1月5日(金)~1月31日(水)

【場所】1階渡り廊下



リクエストと投票で話題の本を読もう

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画です!

投票期間は 12月4日(月)~2024年1月22日(月)

リクエストや投票に  
ぜひ参加してね!



日曜開館

試験期間前の日曜日(1月28日、2月4日)を9時から17時まで開館します。試験勉強などにぜひご利用ください!

好評開催中!

第11回京都・大学ミュージアム連携 スタンプラリー  
2023年9月23日(土・祝)~2024年3月25日(月)まで  
※本学は連携参加大学です。



【2024年3月31日迄】

情報処理学会サイトライセンスサービストライアル中

2024年3月31日(日)まで、下記対象誌の最新号がオンラインで読み放題です。「コンピュータと教育(CE)」や「教育とコンピュータ(TCE)」も対象ですので、この機会にぜひご利用ください。

【対象誌】・情報処理学会論文誌(ジャーナル)  
・情報処理学会論文誌(トランザクション)  
・情報処理学会研究報告

【Access先】 <https://ipsj.ixsq.nii.ac.jp/ej/>

\*掲載から2年以上経過した論文はオープンアクセスとなります。

\*利用は学内ネットワークからのアクセスに限ります。

教育資料館 まなびの森ミュージアム

【1月の開館日時】

8日(月・祝)、15日(月)、22日(月)、29日(月)  
14:00~17:00

井茂雅吉(雅号=井茂圭洞)名誉教授文化勲章受章記念展示  
令和5年11月3日に文化勲章を受章されました。

「雪中梅」  
「種田山頭火歌書  
(この道しかない はるのゆきふる)」

展示場所:附属図書館



教育資料館 まなびの森ミュージアム  
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

## 論のくちび理のむすび

今回の執筆者 丸山 啓史 (発達障害学科 准教授)

### 犬や猫の不妊・去勢手術をめぐる倫理的問題 —優生保護法のもとでの強制不妊手術を念頭に置いて—

丸山 啓史

京都教育大学紀要 2023, No.143, pp. 29-41  
URI:<http://hdl.handle.net/20.500.12176/9820>



日本では、優生保護法(1948年～1996年)のもとで、障害児者等に対して強制不妊手術が行われてきました。近年になり、被害者によって、優生保護法の罪を問う国家賠償請求訴訟が進められています。

人間に対する強制不妊手術の問題性が社会的に認められてきていることは重要です。しかし、一方で、犬や猫の(同意のない、強制的な)不妊・去勢手術は、ほとんど批判されないどころか、推奨される傾向にあります。そのことに問題はないのでしょうか。「犬だから」「猫だから」「人間とは違うから」ですませるのは、生物種を理由とする差別(種差別:speciesism)でしかないかもしれません。

本論文では、犬や猫の不妊・去勢手術が政策的に推進されていること、犬や猫の飼育に関する書籍でも不妊・去勢手術が推奨されていること、動物倫理をめぐる近年の議論においても不妊・去勢手術が容認されていることを整理しています。

そのうえで、犬や猫の不妊・去勢手術を肯定あるいは容認する論理と、優生保護法のもとでの強制不妊手術を推し進めてきた論理との類似性を指摘しています。「ケア(世話)がしやすくなる」「手術と引き替えに面倒をみてもらえる」「どうせ子どもをもたない」「不幸な子どもが生まれなくてすむ」といった理屈が、両者に共通してみられます。

犬や猫の強制不妊手術を認めたまま、優生保護法のもとでの強制不妊手術をめぐる問題を完全に「克服」することができるのでしょうか。犬や猫の強制不妊手術は、許されるものなのでしょうか。考えてみたいことなのです。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 143号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載されています。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2024年1月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

1/5 授業再開  
1/13-1/14 共通テスト

2024年2月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	

2/3 大学院入試(学外者利用不可)  
2/5-2/9 後期末試験  
2/25-2/26 前期入試

※開館日程につきましては、変更となる場合がございますのでホームページをご確認ください。

●京都教育大学附属図書館ホームページ  
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/>  
(QRコード→)



京教図書館 News No.280 (2024年1月号)  
発行日:2024年1月4日  
編集発行:京都教育大学附属図書館  
問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp